

教科学習につながる外国人児童生徒の指導について

教科学習につながる外国人児童生徒の指導について

【外国人児童生徒への初期適応時の日本語指導】

—初期適応指導教室*1の取組から—

日常的な会話やひらがな・カタカナの読み書きの習得等に一定の成果が見られ、生活言語能力は高まっている。

【今後の取組の方向】

教科学習につながる学習言語能力の育成を図る。

教科等の学習の視点*2

【個に応じたきめ細かな指導】

- ・教科の指導においては、当該児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が大切である。
- ・個に応じたきめ細かな指導は、通常の授業や日常の学校生活において十分配慮することが基本ではあるが、当該児童生徒の実態によっては、取り出し指導や放課後を活用した特別な指導等の配慮をする。
- ・当該児童生徒の実態に合わせて、最も適した方法を選択し、学習の成果が上がるように努める。

【教師の姿勢と学級経営】

- ・教師自身が当該児童生徒の母国に関心を持ち、理解しようとする姿勢を保ち、温かい対応を図る。
- ・当該児童生徒を取り巻く人間関係を好ましいものにするよう学級経営等において配慮する。

【個を生かす指導】

- ・当該児童生徒の生活経験等を、各教科等の学習に生かすようにするとともに、他の児童生徒の学習にも生かすようにする。
- ・当該児童生徒のものの見方や考え方、感情や情緒、外国語の能力などの特性を生かすよう配慮する。

多文化共生の教育

*1 来日後間もない外国人児童生徒に対して、日本語の初期指導や学校生活への適応指導等を一定期間集中して行う教室。

*2 学習指導要領解説総則編より作成。

教科等の学習指導に必要な取組や配慮

【学校全体での体制】

- ・当該児童生徒の母語や日本語の習得状況、学習の未定着内容・未習内容、将来的な進路等、その実態を的確に把握し、学校全体の協力体制のもとに指導にあたる。
- ・取り出し指導等と当該児童生徒の在籍学級が連携し、指導者間で児童生徒の様子について情報共有をし、学習内容の連続性を考えた指導を進める。
- ・児童生徒・保護者と指導者がよく話し合い、学校制度や文化の違い等を互いに理解する。また、保護者に学習内容を知らせ、児童生徒の家庭学習を進めるための支援を行う。

連携

【取り出し指導等を行う場で】

- ・当該児童生徒が在籍する学級での授業の先行学習や復習、未習内容の補充学習など、取り出し指導等の目的に応じて、指導内容や教材を精選して行う。
- ・短く簡単な文型で、「ゆっくりと」、「はっきりと」、「大きな声で」話す。
- ・実物や絵などを使い、視覚化しながら動作を交えて話す。
- ・「聞く・読む・書く・話す」を1時間の授業の中にバランスよく取り入れ、スモールステップの積み重ねで学習内容を構成する。
- ・可能な限り、日常生活との関わりで教える。

【在籍学級で】

- ・周りの児童生徒が、当該児童生徒を学級の一員として受け入れ、当該児童生徒の努力や進歩を認めていく学級内の雰囲気をつくる。
- ・当該児童生徒が取り出し指導等や初期適応指導教室で学ぶ必要性、日本語で学習する苦勞を周りの児童生徒が、理解できるようにする。
- ・取り出し指導で学習した内容を在籍学級においても取り組み、繰り返し学習することで学習内容の定着を図る。
- ・当該児童生徒の学習の成果を認め、自信をもたせる等、自尊心への配慮をする。
- ・当該児童生徒の生活経験等を学習内容に生かす。